

日本語教育実践研究（1）

担当教員【池上 摩希子】

1. 授業内容

該当項目に○印

水曜日	◎	討議	○	報告書	○	教材作成
3時限	○	発表	○	レポート	◎	グループワーク

概要 「2」にあるように、この実践研究では受講生のために準備されたクラスはない。クラスを自分たちで作ることから始める。実習全体のデザイン、参加者の募集、教室の目標立て、学習活動の決定と実施、評価をどのように行うかを受講生が話し合って決め、担当教員はアドバイスをする。水曜の授業はこの話し合いが中心となり、これが準備段階・実習中ともに重要になる。

2. 実習内容

該当項目に○印

土曜日	●曜日		参与観察		テスト実施	○	パートナー
3~4時限	●時限	○	解説・進行		コメント	○	アドバイス

概要 受講生が実習を行う時間は、土曜の午後が中心と考えているが、場合によっては平日の夕方という選択（上記の●の意味）もあり得る（08年は水曜6限も実習時間とした）。どのような学習者を対象としどのような日本語支援を行うかによって、受講生が行う活動も当然変わるので、上記の○は暫定的なものと考えてほしいが、「参与観察だけ」ということはない。自分の考案した授業を自分で具現化する。形態としては、大人数のクラス形式と少人数のグループ形式の両方になる可能性が高い。

3. その他の活動【参加必須】

該当項目に○印

◆曜日		参与観察		テスト実施		パートナー		指導
◆時限		解説・進行		コメント		アドバイス	○	その他

概要 水曜の授業時間内では話し合いも準備も終わらないことが多い。また、自分たちの「教室」を考えるために地域の教室を見学したり参加者募集のために学外に出たりすることも必要になってくる。そして、活動を行ったあとの集まり（ふりかえりの時間）が、内省のためには重要になってくる。受講生同士、互いの時間を繰り合わせながら、こうした時間を確保していく必要がある。

4. 担当教員の考える「実践研究（1）」

①この実践研究を履修することで得られること、得て欲しいこと

（日研修了後、日本語教師として進んでいくにあたり、どのように役立つのか）

どんな活動を組むかによって受講生に求められる知識と技能は異なるが、どんな活動を組んでも、「状況分析」⇒「目標設定」⇒「実施」⇒「評価」（⇒フィードバック）というコースデザインの基本的な流れを押さえ、実施することが求められる。実践研究(1)では、この流れを明確に意識した上で具体的な作業をこなしていく必要がある。個々の技能のアップも大切ではあるが、むしろ、コースデザインを体験し実施することで自分の考える「日本語教育」を具現化する力を伸ばしたい。また、他の受講生との協働作業を通して、チームで動くことの意義を知り、自分なりの関わり方を考えることも大切。

②実習として学習者と接するときの留意点

学習者である参加者は、この実習クラスに参加しても単位が認定されるわけではなく、私たちが作った「教室」にあくまで自分の意志で日本語を学びに来る。ということは、当然、来ないこともある。このことを念頭において、プランを作り、実際の活動を実施すること。

③この実践研究を履修する日研生に最も伝えたいこと

実践研究(1)は09春学期で7期目になる。形を作っていくのは個々の受講生と参加者だと考えて、やってみたかった活動や自分で考えた活動などいろいろなことを試してみたい。但し、どんな場合も目の前にいる参加者に「日本語を教える」ということの意味を確認しながら実施してほしい。

④その他

参考までに、これまでの報告集を希望者に配布する。07年春学期の実践についてはホームページに詳細あり。ボランティア参加者を募って開かれた場を作ることも歓迎する。また、前期までの受講生が継続してグループを運営したりボランティアとして参加したりすることもある。ただし、主となって今期の教室を計画し動かすのは今期の受講生なので、遠慮なく受講し自分の活動を実現してほしい。